

# 教育委員会だより

## 上ノ国町小学校体験作文発表会開催 北海道教育の日協賛事業 5・6年生10人発表

11月8日（金）ジョイ・じよぐら天の川ホールにおいて、第20回町内小学生体験作文発表会が開催されました。

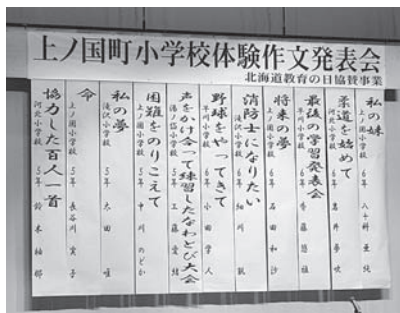
冒頭、滝沢小学校、河北小学校の両校から「いじめをなくす児童会の取り組み」が報告されました。その中で、掃除を縦割り班で行ったり、全校一斉に遊ぶ日を設けるなど、両校のいじめ根絶に向けての取り組みが紹介されました。

その後、町内5校の各校代表11人（当日風邪で1人欠席）が、かけがえのない家族から学んだこと、自身自身の将来のこと、さらには、スポーツ、各行事、体験などから学んだ教訓などをゆつくりした口調でしかも力強く堂々と、発表しました。

会場には4年生以上の児童やたくさん保護者が駆けつけ、自校の代表者の発表、我が子の発表に耳を傾けていました。



ちょっぴりうれしい表彰式



人前で自分の体験や気持ちを言葉で伝えると言うことはとても緊張することですが、それをやり遂げたという貴重な経験は、これからの生活でかけがえのない宝の一つになるものと思われます。

## 上中一年生にブックトークと読み聞かせを実施

11月13日（水）、読書活動推進の一環として、上ノ国中学校一年生を対象に、室谷恵美子氏・北島まき子氏のお二人が講師となり、今年度2回目のブックトークと絵本の読み聞かせを実施しました。

今回取り上げたのは、窪島誠一郎氏の「約束」、「いのち」の二編でした。

勉強もスポーツも苦手な窪島少年は、ある日、左手のない老画家に出会い、「自分は戦地から帰ってきて絵描きになれたが、絵が好きで画家になったかった仲間が戦争でたくさん死んだ」と聞かされます。そこから窪島氏の戦没画学生の遺族を訪ねる旅が始まります。

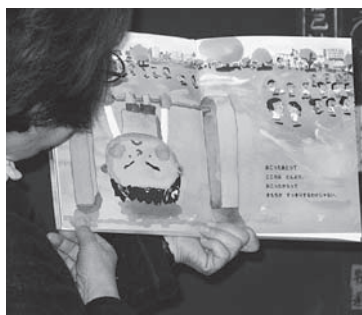
「約束」には、遺族を訪ね、絵を集めて美術館「無言館」を作るまでの話が書かれています。また、「いのち」は実話をもとにしたもので、心に傷を負い、生への希望を持たなかった少女が、無言館で祖父の絵に対面し、いのちの尊さに気づき、祖父たち戦没画学生の分まで強く生きようと決

心する話です。

「皆さんも大きくなったら、ぜひ、『無言館』を訪ねてほしい」と熱っぽく語りかけていました。

最後は、大型絵本「飛べバッタ」の読み聞かせで、「みんなにも羽根がある。いつか大きく飛んで下さ」と締めくくりました。

ある生徒は、「たかさんの本が紹介されとても良かった。また、知っている本も紹介され、もう一度読んでみようと思いました」と感想を述べていました。



「この絵本の絵、おもしろいな」



ちょっと笑みがこぼれる

## 第15回連続歴史講座「ふるさとの歴史を読み解く」開講

11月16日（土）、23日（土）ジョイ・じよぐらはまるホールにおいて、全2回にわたり第15回連続歴史講座「ふるさとの歴史を読み解く」が開講されました。

16日、第1回目の講座では「箱館戦争」をテーマに江差町教育委員会宮原浩学芸員と上ノ国町教育委員会塚田直哉学芸員がそれぞれ講演をおこないました。

宮原学芸員には、およそ7ヶ月に及ぶ箱館戦争の中で戦いの合間では土方歳三ら旧幕府軍と新政府軍がどのように動いていたのかなどをわかりやすく解説していただきました。また、塚田学芸員は字小砂子にある大滝で起こった戦いにスポットをあて、当時の戦い方や出来事などをスライドを交えて講演しました。戊辰戦争のひとつである箱館戦争の珍しいエピソードを聞くことができました。

23日、第2回目の講座は、教育委員会渡部孝之町史編纂史料調査員による「渡島

